

事業報告書 (平成30年度)

事業名 働き方百科 だっぴ 50×50

団体名 特定非営利活動法人だっぴ 担当者名 柏原 拓史

※活動の様子がわかる写真 (データもお願いします) と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

イベント名：働き方百科 だっぴ 50×50

日時：2019年1月20日 (日) 受付 11:30～/12:00～16:30

場所：IPU・環太平洋大学 岡山駅前グローバルキャンパス

参加対象者：高校生～25歳程度の若者世代

当日参加人数：111名 (若者 65名 大人 46名)

内容：自分の中の価値観だけで生きている若者に、新たな価値観を提供する場を作る。多様な価値観に触れあいつつ、その中で自分らしさを見出すことで、これからの社会に期待をもつ若者を増やす。そのために以下のプログラムにてイベントを行った。

プログラム：

1. 若者 4～5名と大人 3名程度にバランスよくなるよう 7～8名程度のグループになって着席。
2. 司会者から出題されるトークテーマに沿って自分の答えをノートにキーワードで書き、一斉に見せ合う。その答えに対してのそれぞれの考えを互いに話し合い、聴きあう。
3. 1時間ほどでグループのメンバーを変え、様々な人と出会い、語り合う。

当日タイムスケジュール：

11:30～12:00 受付

12:00～12:40 オープニングイベント (アイスブレイク)

12:40～13:20 練習及びトークグループ①

13:20～13:35 休憩 (15分)

13:35～14:35 トークグループ②

14:35～14:50 休憩 (15分)

14:50～15:50 トークグループ③

15:50～16:30 クロージング



グループごとにトークを行う様子



トークテーマを出題する司会者



当日の感想を述べる実行委員長



集合写真

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

- ゲストとしてお呼びする大人の方々を様々な職業や年齢等、多様性を持たせることにより、若者が多くの新たな価値観に出会えるようにした。
- 様々な価値観の中で自分を見つめなおすことができるトークテーマを設定することにより、改めて自己理解を深めることができる場となった。
- 社会の一員であることに自覚をもち、各々がどのような社会を作りたいかについて考える機会を設けた。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

参加者向けアンケートより以下の項目において意識上昇の変化が多くみられた。

- ・わくわくする未来を考えることができている。
- ・社会に出て働くことが楽しみである。
- ・積極的に人と関わっていきたい。
- ・自分の行動により、自分の周囲の状況を少し変えられるかもしれない。
- ・日常の過ごし方を変えようと思う。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。

これらの項目に変化がみられたことから、社会の出来事を自分事としてとらえることができる若者が増えたといえる。そして社会の課題に対し各々が自分なりの考えをもち、実行に移すことができる若者が増えていると期待ができる。

4. 今後の課題と展望

【課題】

● 会場

会場の規模に対してトークグループが多かったため、グループ同士が近くなり、トークセッション中に他グループの声が混ざった。

より広い会場を準備するか、会場に対してちょうどよい人数の確保、グループの配置図の検討が必要だと感じた。

● 広報

チラシや各種 SNS を用いた広報をするも、実際の参加者は当団体をもとから知っている人、または当団体員からの紹介が多く、より多くの若者世代にアプローチできるようにすることが望ましい。広報期間が短かったことから参加者が限定されてしまったことも考えられる。

【展望】

当イベントを開催することで、多様な価値観に触れつつ、その中で自分自身を振り返る良いきっかけになった若者が多くいた。社会の一員としての自覚をもち、自分のできることを考え、実行に移すことができる若者を増やすためにも、継続的にイベントを開催していきたい。

また、当イベントに参加した若者が大人になったとき、ゲストの大人として次の世代に魅力的な生き方を伝えることや、参加者が今後運営委員として類似イベントの企画をする等、継続的に循環されていくイベントになることを期待したい。